

## DF モンゴル視察旅行の感想文

櫻井三紀夫

私にとっては5年ぶり、2回目のモンゴルであった。

5年前、モンゴルは開発途上国入りしたばかりで、チンギスハーン空港からウランバートル市内へ向かう道路ですら未舗装だったのに比べ、今回訪れてみると、その道路は片側4車線の自動車道路になっていた。

このことに代表されるように、この5年間の国としての変貌ぶりは目を見張るものがあった。

第1は、ウランバートルの人口が、90万人（国の3分の1）から150万人（国の2分の1）に上がり、一極集中がますます激しくなると共に、草原の遊牧生活者が激減していることである。

第2は、首都の自動車台数の急増で、市内は常在渋滞という状況にあり、社会的効率の低迷、大気汚染の拡大などの問題を孕んでいる。

一方、観光立国を目指した観光施設の拡充も大きく進展しており、日本の援助による新空港の建設や、韓国・ドイツ資本によるチンギスハーン巨大像の建立、ゲル宿泊施設の整備などがなされてきた。ただし、整備が進むにつれ、モンゴルらしさが失われるようにも感じられるので、観光資源としてのモンゴル色の維持も必要な課題のように見える。

今回のモンゴル旅行で、ウルジさんの尽力により、国会議員、清水大使、商工会議所副会頭などに会うことが出来、モンゴルの国としての意気込みやポテンシャル、課題などを直接聴くことができたのは、未知のモンゴルをより良く知る上で大きな収穫であった。

DFの15周年記念事業として今回のモンゴル視察旅行が実施されたことは、今後のDFメンバーの活動に新しい局面を拓く契機になるのではと期待できるものになったと感じられる。

### 〈今後のDFとモンゴルの協力関係の企画案〉

1. モンゴルに精通している清水大使との連携による協力企画の立案。
2. 白鵬・白鵬の姉の実業家との事業連携。
3. 自転車・バイクの夏期レンタル業の設立。（多数拠点にして、乗捨て自由型にする。）
  - \* 秋・冬・春の寒冷期は、道路凍結により自転車・バイクは危険。
  - \* 一方、夏のみ利用では購入金額の元が取れないので、自転車・バイクの利用

は進んでいない。

\*日本からの支援付きレンタル制にすることにより、自転車・バイクの管理・運用を維持し、夏期の渋滞緩和・排気ガス削減に役立てる。

\*レンタル用自転車・バイクには、ICチップを埋め込み、GPSで所在を追跡できるようにする。これにより、盗難を防止する。

\*寒冷期に自転車・バイクを活用できる方法の研究も進める。

\*DFの事業収益の1%を支援に振り向ける、あるいは、オリックスなどのレンタル資金源を利用する。